

# 教育原理と実践をつなぐ教科教育法生活の在り方Ⅱ

藤上 真弓

Teaching Methods in Life Environmental Studies  
to Connect the Principle and the Practice of Education II

FUJIKAMI Mayumi  
(Received August 3, 2016)

キーワード：実践と理論の往還、支援、授業デザイン、単元デザイン、ワークショップ型

## はじめに

「3・5・1・4・5・5・6・2・6・6・6・1・3・4・4・6・6・6・5・4・6・6・5・6・4」これは、筆者が小学校教員だった際に、新採用から退職までに担任した学年である。生活科は、平成2～3年度の移行期間を経て、平成4年度に全面実施となった。平成元年度に小学校教員として採用された筆者は、低学年を担当したのは3回である。これは、筆者が平成14年度から小学校において全面実施となった総合的な学習の時間を専門としてきたことや高学年を担当することが多かったことが理由であることは、「教育原理と実践をつなぐ教科教育法の在り方」（藤上、p.1、2015）においても述べた。筆者のように、低学年を受け持つことが少ない教員もいる上、第1学年から第6学年までという幅がある小学校においては、久しぶりに低学年担当という状況になることもある。また、逆に、低学年の担当が多いという教員もいる。

創設から20年余り経ち、校内研修において生活科を研究対象とする学校も減り、若手教員から、「生活科の授業を参観したことがないので、授業づくりのイメージが湧きにくい」という悩みを聞くことも増えた。

このような状況から、生活科という教科の本質や生活科における教師の手立ての在り方等についての理解や授業づくりに対する意識は、他の教科よりも教師間の格差が大きいと感じる。しかしながら、生活科は、「小学校に入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム」（国立教育政策研究所、2015）であるスタートカリキュラムの中心としての役割も果たさねばならない。また、「学習上の自立」「生活上の自立」「精神的な自立」という「三つ意味での自立への基礎を養うことが、生活科の教育目標で意図」（文部科学省、p.13、2008）されており、今後子どもたちが学校生活や日常生活を前向きに過ごしていくための土台をつくっていく役割も果たさねばならない。

現在教科教育法生活を受講する学生は、小学校第1学年・第2学年において生活科を学んできている。活動や体験を通して学ぶ教科であるため、鮮明に当時の学びの事実を記憶している学生もいるが、低学年期だけに存在する教科であるため、何についてどのように学んだのかについて記憶がないという学生も多い。

また、生活科に対して「遊ぶ」教科という認識をもつ学生も多く、活動や体験の意味や価値、子どもにとって「遊ぶ」ことの意味や価値、それらを設定した教師の意図に目が向いておらず、生活科という教科が子どもの成長に果たすべき役割をとらえることができていない。自分が経験した生活科のイメージだけで授業づくりについて考えてしまいがちであり、授業観の変換も求められる。

## 1. 研究の目的・方法

「教育原理と実践をつなぐ教科教育法の在り方」（藤上、2015）においては、生活科の教育原理について理論的に学んだ後、それらを実際の具体的な子どもの姿としてとらえ、その姿に導くために必要な教師の見

取りや声掛け等、「教育原理を实践につなぐ」という視点を学生に獲得させるための講義の工夫や方法について研究した。そして、本研究「教育原理と实践をつなぐ教科教育法の在り方Ⅱ」では、实践を通して生まれた子どもの学びの事実や教師の手立て等から、生活科の教育原理を導き出すという、「实践を教育原理につなぐ」という視点を学生に獲得させるための講義の工夫や方法について模索した。

### 1-1 研究の目的

学生自身の生活科における経験をもとに、学生自身によって生活科の教育原理を導き出させ、自分たちが受けてきた生活科教育の意味や価値、設定された活動・体験の背景にある教師の意図について把握できるようにすることをねらった。学生自身の生活科における学びの事実をもとにするため、生活科の学びを通して得た学生自身の実感を伴いながら、自分とのかかわりの中で主体性をもって分析することができる考えた。このような講義を積み重ねていくことで、学生は、子どもの実感や教師の具体的な手立て等から、生活科の教育原理を導き出すことができるようになっていくと考えた。

### 1-2 研究の方法

平成28年度に教科教育法生活の講義受講者3年生対象（月曜日受講：82人、火曜日受講：79人）に、生活科において思い出に残っている単元3つとそれらの単元にまつわるエピソードについてアンケート調査した。そして、ランキング5位までに入っている単元にまつわるエピソードを提示し、生活科の学びを子どもにとって意味や価値のあるものにしていくための条件について、表1の流れで分析させた。

表1 「思い出ランキング」にかかわるエピソードの分析の流れ

①「なぜ、その単元は20才を過ぎた今でも心に残っているのか」「生活科の学びを子どもにとって意味や価値のあるものにしていくための条件は何か」という視点でエピソードを分析し、付箋にキーワードを記述する。
②意味や価値のある学びを生む条件を見つけ、各自で3つのキーワードにまとめる
③自分の分析シートをもとに班（4人）でキーワードを分析する
④班同士で見出したキーワードとその根拠についてプレゼンテーションし合う
⑤他者とかかわって変容した自分の考えを整理する
⑥次の講義の際に各班が導き出したキーワードについて知る
⑦初代生活科教科調査官が考える生活科の教育原理について知る

## 2. 研究の実際

ここでは、平成28年度に教科教育法生活の講義受講者対象（火曜日79人）の第3～4回による筆者の手立てとその成果等について、学生の活動する様子や表現物、振り返りカードの記述等をもとに分析する。

### 2-1 思い出ランキングとエピソードについて

表2は、思い出ランキングの1～5位までの結果、表3は、1位と2位の栽培単元において育てた花や野菜等である。昨年度のアンケート結果も、「1位：花の栽培」

「2位：野菜の栽培」であった。育てた花・野菜等の種類の内訳は表3の通りである。昨年度も育てた花の1位もアサガオであった。栽培単元において、アサガオを育てることは必須ではない。そのため、なぜ、全国的に、アサガオの栽培に取り組む学校が多いのはなぜか、その対象がもつ魅力や価値についても分析するように促した。

表4～8は、1～5位の単元に関するエピソードである。

表4 「季節見つけ単元」に関するエピソード

1	地元の総合運動公園に行き、ドングリやイチョウや紅葉等の落葉を集め、それを使って作品を作ったのが楽しかったから。体験学習は印象に残りやすい。
2	学校内を歩き回り、何があるのか見つけてスケッチするというものだった。普段何気なく下を歩いていた木の名前がすごく面白かったり、予想外の所に木の実があったり、発見が多くて楽しかった。
3	学校の中にある林の中や近くの公園等に出向いて、「秋」を見つけるのが楽しかったから。ドングリやきれいな落ち葉等を集めて満足していた。

表3 育てた花・野菜等の種類

育てた花等の種類		育てた野菜等の種類	
花	人数	野菜等	人数
アサガオ	34	プチトマト	11
チューリップ	3	トマト	
葉ボタン	1	サツマイモ	11
ホウセンカ	1	キュウリ	6
マリーゴールド	1	米	1
百日草	1	大根	3
		オクラ	1

表2 思い出ランキング

◇1位	花の栽培	42人
◇2位	野菜の栽培	27人
◇3位	昔遊び	15人
◇4位	町探検	14人
◇5位	季節見つけ	9人

表5 「町探検単元」に関するエピソード

1	知っているようで知らない場所がたくさんあることを知った。みんなで色々な場所を調査して歩いた。
2	学校の周辺の様子を探検することで、「自分たちの町」に愛着がもてた。
3	お店に電話で訪れる約束をするところから、子どものみで行い、訪問後の発表も、新聞形式にしたり、小さなお店やさんをつくって店員さんがすることを再現したり、ほぼ自由な形式で取り組んで、班の人ともこのことをきっかけに仲良くなったから。
4	自分たちの地元を、どのように回り、地元のよさを発見していくか、どのように地元のよさをまとめて他者へ伝えるか、自分たちでグループをつくり計画して行っていたから。また、町探検で見つけた食材が給食として使われたから。
5	初めて自分で切符を買って、電車に乗って、地域の人の話を聞きに行くという体験をしたから。
6	学校近くのスーパーや花屋、クリーニング店の工夫や様子を知ることができたから。
7	1kmってどれくらいの距離なのか歩いてみようということで、小学校から通学路を歩いて1kmの地点を調べた。みんなで歩いて楽しかったし、今でもその距離感は覚えている。
8	給食で食べているパンが作られているところを見ることができて、感動したから。ラスクをお土産にもらえたから。
9	学校の外に出て行って、自分の住む街を探検したから。かなり遠くまで探検バックを持って歩いて行ったのでよく覚えている。
10	みんなで町の中を歩いて探索した。通っていた幼稚園に行ったり、全然知らない道を通ったりしてわくわくした。自分の家の前に来て、「ここが自分の家！」と自慢するのが楽しかった記憶がある。
11	事前に先生が訪問予定の美容室に探検のお願いの電話をしていたにもかかわらず、児童が来る気配がないと問題に。学校に戻ると、近くにある別の美容室を訪問していたことが分かった。いつもお父さんが通っているからと、何の疑いもなく訪問してしまった。先生に笑われたのを覚えている。

表6 「昔の遊び単元」に関するエピソード

1	町内のおじいさんとおばあさんが来てくださって昔の人の遊びを教えてくださいました。コマや竹馬等のおもしろい遊びがたくさんあったので、とても印象に残っている。
2	みんなで遊びを見つけてやったから。
3	地域のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に、けん玉やコマ回し等をして遊んだのが楽しかった。お手玉は当時2つで精一杯だった私にとって、楽々4つできるおばあちゃんたちが心から「すごい」と思ったのが記憶に残っている。
4	太鼓の先生が通っていた保育園の先生だったから、そもそも太鼓をやっていたから。
5	年配の方が学校へ来て、お手玉とかまりつき、けん玉を教えてください、それを保護者の前で発表した。とても緊張したので覚えている。
6	私たちが小学1年生の頃からゲームが発達していき、友達と遊ぶといっても一緒にゲームをすることが多かった。そんな中、地域の人たちが当時の私たちと同じ年齢の時にやっていた遊びとの大きな違いを感じ、また、その面白さを体感できたから。
7	地域のおじいちゃん、おばあちゃんにお手玉やけん玉等を教えてくださいました。一緒に遊べて楽しかった。
8	めんこを厚紙で作って、みんなで遊んだ。作る時もそれぞれが好きな絵や字を書いて、楽しかったし、先生も一緒に遊んでくれて面白かった。また、先生が持っていたマイめんこがとても強くてかっこよかったのを覚えている。
9	めんこ、コマ、竹馬、お手玉、缶ポックリ等、様々な遊びを体験できて楽しかったから。
10	地域のおじいちゃん、おばあちゃんを学校に呼んで、めんこ、竹馬、缶ぽっくり等をやった。その影響で、父に竹馬を作ってもらった。ついでに一輪車も買ってもらった。さらに、キックボードも買ってもらい、家にはたくさん乗り物があった。
11	一人1個ずつ学校でコマを買い、授業でそのコマに色を塗ったり、絵を描いたりした。誰が長くコマを回せるのかの競争に勝つために家に持って帰って練習をよくしていた。
12	竹馬を作った。地域のおじいさんと、コマやタコ等、伝統遊びをした。
13	木でできたコマを一人1つずつもらえて、ペンで色を塗って、コマを作った。作ったコマを回して、みんなで遊んだ。コマをすることがなかったので、初めての経験で楽しかったため、心に残っている。
14	昔の遊びを体験した。(地域のお年寄りがやり方を教えてくださいました)初めて経験するものだったので楽しかった。

表7 「栽培単元(野菜等)」に関するエピソード

1	1つ上の兄が小学生にしてシソを育てて先生に渋いって笑われた記憶が残っている。私は無難にキュウリを育てたのだが、もう少し面白いのを植えればよかったと思っていた気がする。
2	私は食べるのが大好きなので、種から各自一人ずつ配られ、育てていくという単元は、子どもの頃の私にとって非常にわくわくする気持ちが大きく、育てていく過程が楽しみであったため、心に残っている。
3	毎日お世話をするのが大変だった分、収穫した時の感動がすごかった。みんなで一口ずつ食べられたのがすごく楽しかった。
4	育てたミニトマトが、まず青い実になって、さらにそれを待つと、赤い実になってそれを食べた時に感動したから。
5	キュウリを自分で水をやって育てたから。(時間をかけた。)
6	キットを使って、毎日、水やりをして育てた。トマトの実がなった時、とてもうれしかったことを覚えている。
7	初めて自分たちで食物を育て、実際に口に作る活動だったから。学びが分かりやすく、自分の生活の利益になったから。
8	間引いた苗を家に持ち帰り植えて、豊作だったから。
9	私は白米が昔から大好きなので、絶対に立派に育てて食べるんだという気持ちで必死に水やりをしていた記憶がある。
10	大根の種をまくところから始めて、冬に大根を収穫して、最後にその大根でおでんを作ってみんなで給食の時に食べた。春から育てて、定期的に草むしりや水やりに行き、最後は収穫をして、各クラスごとに作る料理を決めてパーティをした。枝豆を育てて、夏に収穫して、最後にゆがいて枝豆パーティをした。
11	収穫が楽しく、サツマイモは実際に家で食べたから。
12	ヘチマを育てたのが楽しかったから。
13	芋の苗を植え、世話をし収穫した後は、クラスでスイートポテトを作って食べた。また、トマト、キュウリ、オクラ等といった野菜も交代で水やりをし、できた野菜は家へ持ち帰った。
14	芋ほりをしてスイートポテトを作った。
15	ひょうたん自体興味をそそるものであり、さらに楽器を作ることで、周りの植物にも興味が出たから。また、植物を育てる面白さも学ぶことができた。
16	ヘチマを育てた。外での活動だったから。

17	学校の庭で育てて、みんなで芋ほりをした。しばらくした後に、校庭で落ち葉で燃やして焼き芋にして食べた。母が手伝いとして来ていて、一緒にやったのもあり、印象に残っている。
18	茎？つる？の部分は食べられるんだ！と驚いたから。すごくおいしかったような
19	畑に植えたじゃがいもやさつまいもを育てた後、収穫してポテトチップス等を作ったから。
20	野菜（ジャガイモ・人参）を作って、先生がそれをポテトチップスにして全員で食べたから。
21	私のトマトと数名のトマトがしおれてダメになってしまった。多分、台風の子供だと思う。とても悲しかったけど、1つ1つの鉢ではなく、班になって、班みんなでトマトを観察した。そのトマトはたくさん実になって、とても美味しかった。急遽、サツマイモを育てて楽しかったから。
22	プチトマトを育てたのだが、自分がプチトマトが好きではなかったので、なんだか複雑な気持ちだった。

表8 「栽培単元（花）」に関するエピソード

1	入学して初めて自分で育てて、大きく育てて夏休みにアサガオの研究をしたから。
2	初めて何かを育てたから。
3	育てるのが楽しかった。
4	花が咲いたことがとてもうれしかったので、よく覚えている。
5	種の色が独特だったから。
6	育てたから。
7	アサガオを毎日水やりをし、変化があれば絵日記に記録を残したから。アサガオの種を収穫し、新入生にプレゼントした。
8	小さかったのが、大きくなるのが楽しかった。
9	みんなで毎日水やりをして、芽が出ているか確認しに行っていたのが思い出に残っている。
10	家で、実際に植物を育てることがあまりなかったから。
11	外での活動だったから。
12	種から育てて花が咲いたから。スケッチや観察を長期にわたり行ったから。
13	毎朝水やりをしていたから。
14	生活科で育てたアサガオで夏休みに押し花を作ったから。
15	アサガオの花を自分の鉢に植え、毎朝水をやってた。また、アサガオ以外にも百日草やマリーゴールドを植えていた。その時に、それらの花の名前を覚えた記憶がある。
16	自分専用の植木鉢で、自分だけのアサガオを育てるということで特別感が生まれ、今でも心に残っている。たしか、皆は青やピンクのアサガオが咲いていたのに、自分は紫のアサガオしか咲かなかったから、他の人がうらやましかった思い出がある。
17	観察日記を書いたり、水やりをしたりすることを頑張っていたから。自分の育てた植物と友達が育てた植物を比べていた。
18	初めて植物を育て、花が咲いた時の喜びは今も覚えている。これも体験・経験である。
19	植物を種から育てて、キレイに花が咲く過程を見ることができ、さらに花が枯れて種を取ることも体験できたから。なぜ、朝だけしか咲かないのか、なぜ、種は枯れてから取れるのか不思議だった。
20	自分のアサガオは白色が咲いたので色水が濁った水みたいになっただけで……。それでクラスで笑いが取れたのでよく覚えている！それぞれ名前を付けて、一人ひとりに名前があるプレートがあたえられていたから。
21	毎日、ペットボトルのキャップをジョーロのようなものに取り替えて、水やりをしていたことが印象的であったから。自分のものが成長するのが遅い時は、とても心配して、世話を力を入れていた。また、卒業式に全員のものが飾られた。
22	初めて、自分の鉢をもらって種から植物を育てた。毎日水をやらなくてはならなかったから、とても大変だったので記憶に残っている。育てた後は、夏休みになったらその鉢を持って帰って、もう一度育ててみたので、覚えている。
23	アサガオを育てたので、そのアサガオの成長の経過具合の授業があった。自分は絵を描くのが好きだったので、描いた葉の丁寧さを褒められたので覚えている。
24	人生で初めて生命（植物）を育てたから。あの小さな種から美しい花を咲かせる生命の力強さや花を咲かせた時の感動、達成感が忘れられないから。
25	葉ボタンを育てた。めずらしいキャベツみたいな植物だったので、覚えている。
26	毎日水やりを頑張る、立派に咲いた時に参観日で母親にとっても褒めてもらった。多くの種ができて収穫したのもうれしかった。
27	小学校に入って、ほとんど初めての授業で何をやるんだらうとわくわくしていたら、「アサガオを育てます」と言われてとてもうれしかった。確か、私のアサガオは枯れてしまったが、その悲しさも思い出になっている。
28	アサガオがしぼんでがっかりしていた時に、先生が「色水をつくらう！」と言って元気づけてくれた。ピンクや水色のきれいな色水がつくれてとてもうれしかった。友達と一緒に、ペットボトルに入れてしばらく飾っていたことを覚えている。
29	1年生で入学してすぐにアサガオを育てた。一人ひとりに鉢がもらえて、特別な感じがしてうれしかったのを覚えている。毎日水やりをしたり、観察日記を付けたり、ふれる機会が多かったため心に残っている。
30	花が咲いたり、種ができたりすることが非常に印象深かったから。夏休みの間に持って帰って育てたり、できた種を家の花壇に植えて育てたりしたから。
31	毎日お世話をし芽や花が出ることを楽しみにしていた。夏休みもプランターごとに家に持って帰り育てていた気がする。
32	咲き終わった後の種を持ち帰って、次の年に植えようと大切に保管していたため。ただし、次の年に植えることはなく、そのままにしていた。
33	毎日水をやったり、観察日記を付けたりしていた。なかなか花が咲かなかったけれど、毎日観察し続けるのが楽しかった。
34	生活科といえばこれというイメージ。枯らさずに育てるのは難しかった。ペットボトルのふたに穴を開けたじょうろを一人1つ持っていた。
35	最初は自分のがどれだか分かっていたが、そのうち、鉢の文字が薄れて、どれが自分のか分からなくなって、大体の場所のものを持って帰って記憶がある。
36	毎朝、お水をあげていた。実は、自分の鉢が車にひかれてこわれてしまってショックだった。だけど、先生が先生の鉢をくれたので、とてもよく覚えている。
37	育てた後、家に持って帰ることができたから。でも、その後、育てるのが面倒くさくなって、枯れたような気がする。
38	自分の育てるアサガオは特別なものだったから。家に持って帰るのが大変だったのも印象に残っている。
39	私は植物に水やりをするのが面倒くさくて、すぐに枯らしてしまったことを今でも覚えている。友達のはキレイに咲いていたが私は全くだった。
40	夏休みの宿題になっていて、毎日成長するのを見るのが楽しかったから。でも、途中で面倒くさくなって枯らしてしまった。毎日見ている友達がすごいなと感じてしまった。
41	私は花を育てる時、定期的に水をあげておらず、何度も花を枯れさせていた。その時に、担任の先生に花にも命があることを教わり、それから毎日花に水をあげ、花が咲いた。そこで様々な気持ちが感じられたから。

## 2-2 分析の流れ

### 2-2-1 意味や価値のある学びを生む条件を見つけ、各自で3つのキーワードにまとめる

各エピソードから、生活科の学びを意味や価値のあるものにしていくための条件を付箋に記述させた。その際に、付箋のキーワードの抽象度が高くなりすぎて、各エピソードにおける子どもの姿や子どもが経験したこと、そこで子どもが感じたこと等が見えなくなってしまうように、図1のSの分析シートの付箋のように、「初めての経験」「自分だけの花を育てる特別感」というように、具体を付け加えて記述するように投げかけた。

付箋を3つの仲間に分類させ、さらに抽象度の高い3つのキーワードにまとめさせた。表9は、SとY、Kが導き出したキーワードである。

図1 Sの分析シート

表9 SとY、Kが導き出した3つのキーワード

S	①自ら活動する ②様々な感情が生まれる ③他者とのつながりをもつ
Y	①個人で考える ②教材となるのは自然や身近なもの ③周囲の人との協働作業
K	①感情豊かに ②他者から学ぶ③試行錯誤

図2 Yの分析シート

### 2-2-2 分析シートをもとに班でキーワードを分析する

一人ひとりが自分の分析シートをもとに班で語り合い、3つのキーワードにまとめ直す活動を設定した。



図4 Sの班の分析の様子

図3 Kの分析シート

表10 Sの班のメンバーが挙げたキーワード

#### ① Sの班の分析とSの分析シート

表10はSの班のメンバーが挙げたキーワードであり、図5はSの班の分析シートであり、Sが記述した付箋(5枚)を筆者が□で囲んだものである。

Sの班の導き出したキーワードは、「①感情、②つながり、③活動」であった。

図6のSの個人の分析シートを見ると、他のメン

学生	①	②	③
S	自ら活動する	様々な感情が生まれる	他者とのつながりをもつ
F	責任感をもつ	楽しむ経験	自信をつける
U	子どもの感情の変化	気付きからの学び	繰り返す継続
I	発見すること	周りに目を向けること	結果を受けとめること

バーと自分の考えの共通点を探りながら、多くの付箋の中から5つを選んでメンバーに自分の考えを伝えたことが分かる。

1 感情	2 つながり	3 活動
おいあんの畑に 興味 がわいた (S)	花が咲いた ときの感動や 達成感 (U)	友達とどちらが先に 育つか 競走 (S)
芽や花が 出てくるのが 楽しい。 (I)	親や先生に ほめられた 嬉しさ (U)	地域の人の けん玉を覚えて もらう。 (I)
集めることの 満足感 (F)	自慢で 楽しい (F)	地域の人が 一緒に遊ぶ (F)
おどろき (S)	家族、友人、先生 に 自慢 したかった (S)	毎日の水やりが 習慣 (S)
	周りの人が うらやましがった (F)	毎日 お世話 した (F)
		毎月水やり 世話をした (U)
		絵日記 観察日記を 書いた (U)
		変化があれば 絵日記に 記録を残す (I)

図5 Sの班の分析シート (Sの付箋を筆者が口で囲んだもの)

1 自ら活動	2 様々な感情	3 他者とのつながり
初めての 経験	初めての経験が 育つことを見て おどろき た〜!!	友達と育ち具合を 競走 した
外に出て 活動 する	自分だけの花を 育てる 特別感	先生から 上手に水やりの方法 を教えてもらう
日々の変化を 観察 する	何色のあじさい が育つか わくわく した	先生に毎日 育ち具合を 話した
	おいあんの畑に 興味 がわいた	家族 友人へ 自慢

図6 Sの分析シート (Sが班のメンバーに伝えた考えを筆者が口で囲んだもの)

## ② Yの班の分析

表11はYの班のメンバーが挙げたキーワードであり、図7はYの班の分析シートであり、Yが記述した付箋(4枚)を筆者が口で囲んだものである。

Yの班が導き出したキーワードは、「①身近に潜む未知との遭遇、②自分だけの、③他者とのかかわり」であった。

図7のYの班の分析シートと図8のYの個人の分析

表11 Yの班のメンバーが挙げたキーワード

学生	①	②	③
Y	個人で考える	教材となるのは自然や身近なもの	周囲の人との協働作業
N	未知との遭遇	他者との協力関わり	自分だけの特別
U	特別感	周りとの関わり	自然を知る

シートの付箋を比較してみると、Yは語り合う前に記述した全ての付箋をもとに、自分の考えと班のメンバーの考えを照らし合わせて、自分の考えを整理し直していた。そして、自分の最初の考えを生かしながら整理し直した新たな考えを付箋に記述し、語り合いに望んでいることが分かる。

<b>1</b> 身近に潜む 未知との遭遇	<b>2</b> 自分だけの……	<b>3</b> 他者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> <li>意外と身近にあるものを教材として取り上げる。</li> <li>季節感を大切にする。</li> </ul> <b>Y</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えてそれを実行に移す/創作的な教材。</li> <li>自分で考えてやってみて失敗したり成功する体験。Y</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスとしてすることは同じだが、一人一人にそれぞれ専用の教材がある。</li> </ul> <b>Y</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>植物の成長後の姿を木々への想像</li> </ul> <b>N</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域探検の際、自分の知っている場所へ行、班の優越感</li> </ul> <b>N</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人達と会話</li> <li>他者との交流</li> </ul> <b>N</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を発見する楽し</li> </ul> <b>U</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日木を育てる楽し</li> <li>自分で育てて自分で楽しむ</li> </ul> <b>U</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて経験して楽しい</li> <li>褒められてうれしい</li> </ul> <b>U</b>

図7 Yの班の分析シート（Yの付箋を筆者が□で囲んだもの）

<b>1</b> 個人で考える	<b>2</b> 教材となるのは自然や 身近なもの	<b>3</b> 周囲の人との協働作業
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えてそれを実行に移す/創作的な教材</li> </ul> <b>2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節感を大切にする</li> </ul> <b>1</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意外と身近にあるものを教材として取り上げる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスとしてすることは同じだが一人一人にそれぞれ専用の教材がある。</li> </ul> <b>3</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>常に周囲の人と関わり合いながら行う</li> </ul> <b>4</b>

図8 Yの分析シート（Yが班のメンバーに伝えた4つの考えを筆者が□で囲んだもの）

### ③Kの班の分析とKの分析シート

表12はKの班のメンバーが挙げたキーワードであり、図9はKの班の分析シートであり、Yが記述した付箋（6枚）を筆者が□で囲んだものである。

Kの班が導き出したキーワードは、「①豊かに感じる、②学び、③次につながる・挑戦する」であった。図9のKの班の分析シートと図10のKの個人の分析シートを見ると、Kは、自分の分類の枠組みを変えずに、班の分析シートに付箋を貼っている。Kの班は、Kの考えの枠組みをもとにして、考えを整理していったことが分かる。

表12 Kの班のメンバーが挙げたキーワード

学生	①	②	③
K	感情豊かに	他者から学ぶ	試行錯誤
N	感じたこと	その後につながるもの 活かされるもの	学べたこと
U	自分で時間をかけて 体験・経験してみる	体験・経験を通しての楽しさ、 喜び、感動	初めての活動に 挑戦する

1	2	3
豊かに感じる	学ぶ	次につなげよう・挑戦する
42種類を食べる 楽しむ T	長期にわたり 何かを育てる ドキドキ感 K	他人のものと 比べる K
花が咲いたときの 喜び T	他人とはちがう 花が育つ 驚き K	毎日観察する T
名前をつけて 大切に育てる 愛着 K	初めて知った 友達の様子 K	自分で育てること 野菜をつくる 大空を学ぶ N
自分一人で 育てるという 自信 N	自分たちの町に あるものを 発見する 知る N	挑戦したいという 気持ち N
	あさがおが おくれるのを通して 生き物の命について 考える N	生き物の命を 大切にしようと する気持ち N
		初めて育てるもの 育つことに 挑戦する T
		きれいな花を 咲かせるための 努力 K
		他のものを 育ててみたい 興味がある N

図9 Kの班の分析シート

1	2	3
感情豊かに	他者から学ぶ	試行錯誤
自分の作ったもの を調理して 食べる 楽しさ	みんなで協力して つくる 団結力	きれいな花を咲か せるために 努力
花が育つのをみる 楽しみ	初めて知った 友達の様子 K	アサがおが 枯れて 悲しい
「アサがお」 という 特別感	自分の知らない あそびを知る 新しい発見	
が育った 嬉しさ		「だから育てる時 はこうしよう！」 お花は...
花が育つ 驚き		どこにも...

図10 Kの最初の分析シート（Kが班のメンバーに伝えた考えを筆者が口で囲んだもの）

### 2-2-3 班同士で見出したキーワードとその根拠についてプレゼンテーションし合う

班同士で自分たちが導き出したキーワードをプレゼンし合った。時間が足りず、プレゼンテーションした後に、短時間の質問のやりとりの時間しか確保できなかった。そのため、考えを伝える活動となり、影響を及ぼし合うまでの語り合いにはならなかった。

### 2-2-4 他者とかがわって変容した自分の考えを整理する

多くの学生は、班における分析活動において、互いに影響を与え合っていた。以下に、SとY、Kの変容について分析する。



図11 班同士でプレゼンテーションし合う様子

①Sの変容

表13 Sが振り返りカードに最終的に記述した

3つのキーワードとその理由

①活動	②つながり	③感情
「初めて～した！」というこの時期ならではの「初体験」は、生活科にたくさん隠れていると思った。日常の中で知っていたものも体験を通して、もっと興味をもったり、新しい気付きに会ったりできる。	1の「活動」を通して、友達、先生、地域の人、家族とつながる機会が生まれるから。例えば、友人と育つ競争をしたり、育てた野菜を親と料理したり...	1の「活動」、2の「つながり」を通して、感情が生まれると思った。植物を育てる(活動)の中で人とつながり、喜びや楽しさ、時には悔しさが生まれて、心が豊かになると思った。

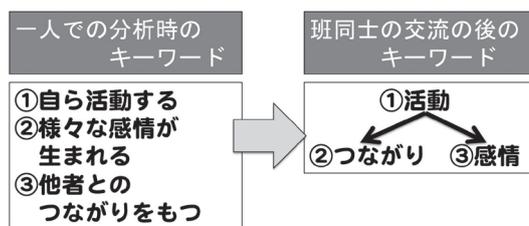


図12 Sの変容分析

表13の振り返りカードの記述を見ると、班の分析を通して、「活動」が始まりであり、「活動」を意味や価値のあるものにする事で、「つながり」「感情」が生まれるという考えに至ったことが分かる。

②Yの変容

表14 Yが振り返りカードに最終的に記述した

3つのキーワードとその理由

①意外と身近に潜む未知との遭遇	②「自分だけの…」特別感	③他者との関わり・協力
生活科では感動体験が大切にされていると思った。その感動体験とは、子どもたちが、まだ知らなかった(未知)に出会うことによって必然的に生まれてくるものだと思うため、未知との遭遇が必要だと考えた。	よく、自分が大切に育ててきたものなどを「手塩にかけると言うがまさに、栽培単位では、それぞれの花や野菜を枯らさないように、手塩にかけて育てている。そうして大切に育てれば育てるほど、うまくいった時の感動やうまくいかなかった時の残念感は大い。そのような失敗・成功体験が子どもを成長させてくれると思う。	自分で行う活動も多いが、それらも、周囲の人と関わり合いながら行っている。また、グループで一緒に行う活動もあり、そのメンバーで感動を共有するための他者とのつながりはとても重要な材料だと思う。

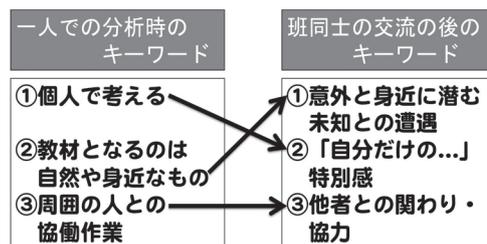


図13 Yの変容分析

表14の振り返りカードと表11のYの班のメンバーの考え、図7、図8の分析シートとを照らし合わせてみると、Yは、班のメンバー3人の共通点を浮かび上がらせ、キーワード化したものをもとに、最終的な自分の考えを導き出していったことが分かる。

③Kの変容

表15 Kが振り返りカードに最終的に記述した

3つのキーワードとその理由

①豊かに感じる	②様々な場面から学ぶ	③次につなげる・挑戦する
「育つ中でのドキドキやワクワク」「育った時の喜びや嬉しさ」など、自分の心の奥底から素直なリアクションや感情を引き出すことができるのは生活科において大切にしないかと思う。	地域の人から学んだり、一緒に育てている友達から学んだり、育てている花や野菜から学んだり、自分の町から学んだり、自分の身近な所に多くの「学び」が広がっているから。	「花が枯れてしまったのはどうして?次、どうしたらきれいな花を咲かせることができるのだろう。」や「今回、こうやって花がきれいに咲いたから次はこうしてみよう!」など次へとつながったり、次へとつながった。次への挑戦とつなぐことができたりするのが、生活科ではないかと思ったから。

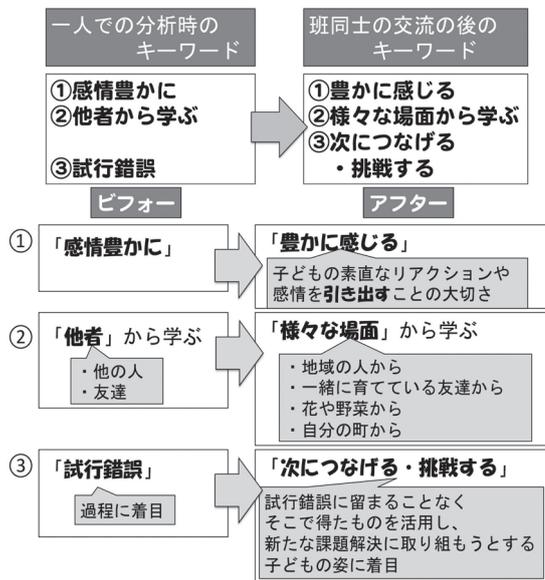


図14 Kの変容分析

図14のKの変容分析を見て分かるように、Kは、自分の考えに、関わったメンバーの考えを付け加えていた。①に関して、最初は子ども自身が感情豊かに対象とふれあうことの大切さについて述べていたが、教師が、子どもが豊かに感じ、素直なリアクションを引き出す活動・体験を提供する大切さについて記述している。②に関して、最初は、子どもは人から学び、成長することについて述べていたが、人だけでなく、様々な人・もの・出来事等から学ぶと記述している。③に関しては、最初は、子どもに試行錯誤をさせる過程を設定することの重要性について述べていたが、試行錯誤にとどまることなく、そこで得たものを活用し、新たな課題解決に取り組もうとする子どもの姿に着目した記述になっていた。

## 2-2-5 次の講義の際に各班が導き出したキーワードについて知る

第4回の講義の始めに、第3回の講義で各班が導き出したキーワードを印刷して配付した。そして、今後の講義で、より具体的な教師の手立てについて共有していくことを予告した。

## 2-2-6 生活科の教育原理について知る

各班が導き出したキーワードを知った後に、生活科初代教科調査官（嶋野道宏）がいう生活科の教育原理「子ども中心・課題中心・体験重視」について伝え、自分たちが導き出した考えとの比較を促した。それとともに、自分たちが導き出した考えとの共通点に着目させ、受講生の分析を価値付けた。

## おわりに

1回の講義だけでは、学生が生活科の教育原理の全てを把握することは難しい。しかし、15コマある講義の前半部分で、学生自身が、自分自身の経験ともつなぎながら生活科の教育原理についての自分なりの考えをもっておくことは、その後の講義内容で出会う生活科に関する理論やそれを具現化する手だて等と自分の考えとの共通点や相違点を探っていくことを促し、意欲的・主体的に講義内容と向き合うことができたと考える。その後の講義において、毎回振り返りカードに生活科についての自分のとらえを記述する欄を設けた。表17は、第6回目の振り返りカードの記述の一部である。

今後、講義を通して、自分が経験してからこそ実感できる生活科が存在する意味や価値をさらに浮き彫りにしたいと考えるが、自分が経験してきた生活科のイメージだけで授業をつくる危険性をとらえることができるようにしたい。また、幼稚園教諭や中学校教諭の免許を主に取得する学生も、小学校教諭の免許を副免許として取得しようとして受講している。その学生が小学校教員にならなくても、義務教育スタート時の2年間にだけに生活科が存在する意味や価値をとらえることで、子どもの一生を展望した教育を幼保小中高で連携して行うことができるようになることを願っている。

## 付記

本研究は、筆者が、平成28年度第25回日本生活科・総合的学習教育学会宮城大会において口頭発表したものである。

## 参考文献・引用文献

国立教育政策研究所：「報道発表『スタートカリキュラム スタートブック』（教員向けパンフレット）について」，2015。

藤上真弓：「教育原理と実践をつなぐ教科教育法の在り方」，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第40号，2015。

藤上真弓：「理論と実践をつなぐ教科教育法生活の在り方～生活科の思い出ランキングから読み解く，生活科の授業づくりのポイント～」，第25回日本生活科・総合的学習教育学会全国大会紀要，p.216，2016。

文部科学省：「小学校学習指導要領解説生活編」，日本文教出版，p.13，2008。

表16 各班が導き出したキーワード

1	豊かに感じる	学び	次につなげる・挑戦する
2	心を動かす体験	人との関わり	新しい発見・探究
3	身近に潜む未知との遭遇	自分だけの	他者との関わり
4	いのち	感情	つながる
5	体験	交流	感性を育てる
6	特別の	自分と他人	感情
7	体験	人との交流	感情の豊かさ
8	感情	体験	責任
9	感情	つながり	活動
10	生命	感情	愛着
11	気持ち（プラス・マイナス）	体験	発見
12	活動・体験	つながり	気持ち
13	特別感	感情	活動
14	知識	感情	交流
15	学びにつなげる	様々な気持ち	体験
16	感情の変化	人との関わり	実体験
17	心が動かされる	継続すること	初めての体験・発見
18	体験	自分	交流
19	感情の豊かさ	特別な思い出	新しいものとの出会い

表17 5月24日の振り返りカードの記述

（略）無事に種ができたことだけでも自身につながると思う。もちろん、毎日お世話を欠かさずして大きくなったことは大きな自信につながると思うが、種から植えて種を生産することで、自分の植物が自分によって生長したことを形で実感できる。種は放っておいてできる物ではないので、自分の頑張りや認められ自信がつく。だから、生活科の中で植物を育てることは成果が目で分かりやすいので、とても意味があることだと改めて分かった。低学年の頃に何気なく受けていた授業がこんなにも意味があったんだと気付いた。

表18 中学校教員を目指す学生の最後講義における振り返りカードの記述

自分は将来小学校の先生にはならないと思うが、生活科という科目は、様々な発達段階の子どもたちに接していく教師にとっては、かなり重要な科目であり、今回、それを学べたことは、自分にとって大きなものだったと思う。生活科を教えることはないかもしれないが、学んできたことを忘れないようにする。